

四中だより

No. 1 4

令和2年（2020年）12月8日
枚方市立第四中学校
校長 鶴島 茂樹

「人権学習」：〈ちゃんへんさんを招いて〉

振り返りより(いくつかのクラスの学級通信から拾いました)

*いろんな過去があって、いじめられて、それでも立ち上がって前を向いて、人を笑わせようとするすてきな人なんだなと思いました。今もちょっとした違いでいじめられている人がいると思うと心が痛いし、ちゃんへんさんのような方々が、そんな子たちに勇気や希望を与えていくんだらうなと思いました。

“みんな違ってみんないい” その言葉の意味を教えてください方なんだと思うし、色んな経験をしてきたからこそ、笑顔で人を笑わせれる方なんだなと私は思いました。

*教科書にのっていないような、朝鮮と日本の関係について知ることができた。朝鮮戦争での彼らの立場は、今まで普通の生活を送っていたのに、他国の争いの地になり、過去には植民地支配までされてしまった。

これからも変えることができないかもしれないものであり、一つの出来事でも国が違うだけで、見方にそれぞれ相違点が生まれるから、様々な立場になってこのことについて考えないといけないと思った。

*朝鮮人ということだけでいじめられるということは決してあってはいけないことだと思う。朝鮮人でも日本人でも同じ人間で、幸せになる権利はあるのに、その権利を人間が奪ってしまうことは間違っていると思った。

日本人は朝鮮で起きた戦争のことを理解し、決して日本が無関係ではないということを実感し、朝鮮人の気持ちも考えていくべきだと思った。パフォーマンスの方は大技をたくさん見せてくれたり、すごく明るく元気だったので、見ている方もすごく明るい気持ちになりました。

*今まで知っているつもりだった韓国、北朝鮮、日本の時代背景と全然違ったのでびっくりした。今もなお朝鮮戦争に対して思っていることがたくさんあると思うし、近い国であるからこそ、自分ももっと人権について考え、平等な社会を作っていくことを行っていかなければならないと思った。

〈ちゃんへん.さんが伝えたかったことは・・・〉

まさに世界レベル！ちゃんへんさんのパフォーマンスは本当に素晴らしかったと思います。そしてそれが、自身への差別（いじめ）や、国籍の問題等と闘いながらたどり着いた現在の彼の姿であることに感動を覚えます。

さて、しかし、ちゃんへんさんは、「いじめられたら、差別されたら、努力して一流になればいい」、ということ伝えたかったんでしょうか？プロのパフォーマーになった自分を見習えと言いたかったのでしょうか？

実は、ちゃんへんさんには「僕は挑戦者」という著書があります。ご自身の半生を振り返った言わば自叙伝なのですが、それを読むと、パフォーマンスの後で話された内容がさらに詳しく書かれています。

その著書を読むと、ヘイトスピーチに代表されるような、現在でも残る朝鮮人への日本人の差別や偏見に対するちゃんへんさんの強い怒りを感じます。そしてそういった差別や偏見が起こるのは、朝鮮と日本の歴史をきちんと知らない日本人が多いことも原因の一つだと訴えています。

日本はかつて朝鮮半島を侵略し、植民地化しました。第2次大戦時には、労働力として強制的に朝鮮人を日本に移住させるようなこともあったようです。

また、敗戦後の日本の復興、高度経済成長は、朝鮮戦争で軍需産業（アメリカへの武器輸出）で潤ったおかげだとも言われています。植民地支配を受け、それが終わったと思ったら2大国の戦争によって、国が2分割され、家族や親せきも北と南に分断されたままの在日コリアンの人たちの状況、思い・・・

自分をいじめた級友たちも、朝鮮人のことをよく知らず、親の情報をうのみにして僕という存在を否定し、「敵」という考えに直結していたのかもしれないとちゃんへんさんは書いています。

また一方でちゃんへんさんは、学校でのいじめが原因で自殺してしまう生徒の報道を見て、自分がいじめられて一時は死ぬことまで考えたその経験から、「いじめを傍観している周りが勇気を出して NO とすることができれば、どんな被害者でも救えるだろう。僕はそう信じている」とも述べています。

ちゃんへんさんが私たちに伝えたかったこと・・・みなさんはどう受け止めたでしょうか。

著書のあとがきの一節で、ちゃんへんさんはこう書いています。

「大切なのは、自分の問題として考える想像力ではないでしょうか。それが平和な時代を創造するためには必要不可欠なことだと思います」と。